

平成18年度病害虫発生予報第3号

長崎県病害虫防除所長

【気象（平成18年6月9日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、平年同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は平年並か高いでしょう。降水量、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並。2週目は平年並か高く、3～4週目は平年並でしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並並	並並
水稲共通	ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並並 やや少 やや少 並並 並並	並並 やや少 やや少 並並 並並
いちご	うどんこ病 炭疽病	やや少 並	やや少 並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並並 少 やや少 並	並並 少 やや少 並
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	並 やや多	並 やや多
なし	黒星病（注意報第4号継続） ナシヒメシンクイ	多 やや多	多 やや多
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並並 やや少	並並 やや少
果樹共通	カメムシ類	多	多
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ	やや少 やや多 並並 並並 少並	やや少 やや多 並並 並並 少並

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(46筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.5%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が西海市大瀬戸町で6月12日に認められた(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(46筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生株率0.1%)。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 ヒメトビウンカ 並
縞葉枯病 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(46筆)の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は23.9%(11.9%)であった。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲においてヒメトビウンカの寄生は認めなかった(株当たり虫数0.1頭)。

ウ 5月中下旬の小麦圃場及び水田雑草地におけるヒメトビウンカ(第1世代)の生息密度は5.8頭(10.5頭)であった。ラテックス凝集反応法による縞葉枯病ウイルスの保毒虫検定の結果、保毒虫率は1.8%(1.1%)と平年よりやや高かった(表)。

エ 6月上旬の巡回調査の結果、早期水稲において縞葉枯病の発生を認めなかった(発生を認めない)。

オ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、縞葉枯病の発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場でのヒメトビウンカの発生に注意する。

イ 発病株を認めたら抜き取る。

ウ 窒素過多は発病を助長するので適正な肥培管理に努める。

表 ヒメトビウンカ(第1世代)の生息密度と縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

年	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	平年	H18
生息密度	15.6	17.3	6.1	18.6	10.1	6.9	5.0	9.9	10.5	7.4	10.5	5.8
保毒率	0.6	1.5	1.4	0.6	0.8	0.6	0.8	0.9	2.0	3.9	1.1	1.8

注) 平年値はH8~17年の最大・小値を除いた平均値

生息密度は20回すくい取り当たりの頭数

生息密度調査及びウイルス保毒虫検定の詳細についてはホームページを参照

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ やや少
萎縮病 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(46筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は13.0%(44.5%)であった。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は1.0頭(0.5頭)であった。

ウ 5月中下旬の雑草地におけるツマグロヨコバイ(第1世代)の生息密度は20回すくい取り当たり13.6頭(9.0頭)であった。ラテックス凝集反応法による萎縮病ウイルスの保毒虫検定の結果、保毒虫率は0%(0.1%)であった(表)。

表 ツマグロヨコバイ(第1世代)の生息密度と萎縮病ウイルス保毒虫率の推移

年	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	平年	H18
生息密度	2.1	8.3	7.3	10.1	9.6	9.2	9.5	9.9	14.8	8.4	9.0	13.6
保毒率	0.5	1.2	0	0	0.2	-	-	0.2	0	0	0.1	0

注) 平年値はH8～17年の最大・小値を除いた平均値
生息密度は20回すくい取り当たりの頭数
表中の-は未調査

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 セジロウンカ 並
トビイロウンカ 並

(2) 予報の根拠

ア セジロウンカは5月11日にネットトラップ(諫早市)で誘殺を初確認した。その後、6月3半旬までにわずかな飛来を数回認めた。

トビイロウンカは6月14日現在予察灯及びネットトラップでの誘殺は確認していない。

イ 6月上旬の巡回調査(46筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は28.3%(32.0%)であった。トビイロウンカの寄生は認めなかった(寄生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は1.2頭(0.5頭)、トビイロウンカの寄生は認めなかった(寄生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(46筆)の結果、早期水稲において食害株、成虫及び幼虫の寄生を認めなかった(食害株率0%、10m²あたり成虫数0.0頭)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率2.0%(寄生を認めない)で老齢幼虫の寄生を認めた。成虫の寄生は認めなかった(10m²あたり成虫数0.0頭)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は9.8%(27.2%)、発生圃場率は39.4%(78.0%)であり、一部地域で発生が多かった。

2. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、*C. acutatum*による炭疽病(通称:葉枯炭疽病)は発生を認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率4.1%)。

*G. cingulata*による炭疽病は発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率1.4%)。

イ 病害虫防除所の依頼診断では、炭疽病の発生は5件(昨年の同じ時期は4件)認められた。

ウ 病害虫防除員による調査報告では、一部の地区で多発生圃場が認められているが、多くの地域では平年並~やや少となっている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間の灌水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。

イ 高設育苗や全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展葉間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。*C. acutatum*による炭疽病には、バイコラール水和剤は防除効果が低いので注意する。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は12.8%(8.7%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.7%)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.9%(11.8%)、発生圃場率は28.2%(45.8%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。

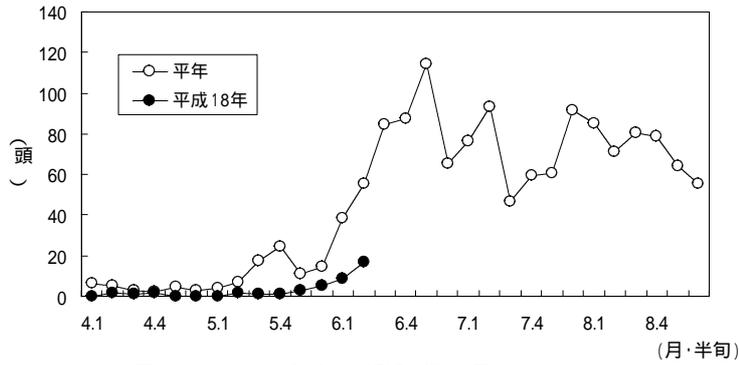


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)
平年は平成8～17年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日からその5日程度前までに薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
第3世代	7/6	7/5	7/10	7/3	7/6	7/8	7/3	7/1
第4世代	7/24	7/24	7/29	7/22	7/25	7/26	7/22	7/20

- 注1：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。
- 注2：プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500メッシュを利用した。
- 注3：平成18年6月14日現在で予測し（1月1日～6月13日まで実測値）、6月14日以降のデータは平年値を利用した。
- 注4：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

5. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- (3) 防除上注意すべき事項
各地区の有機リン剤による防除適期は、下表のとおりである。

表 ヤノネカイガラムシの防除適期

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
防除適期	6/19	6/18	6/20	6/18	6/19	6/20	6/19	6/20

- 注1：各地区の選果場がある地点で算出している。
- 注2：ながさき農林業情報システム病害虫発生メッシュを利用して予測。
- 注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。
- 注4：防除適期は、第1世代幼虫初発日の40日後に設定した。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は2.0%(1.6%)、発生圃場率は60.0%(46.7%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.7%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

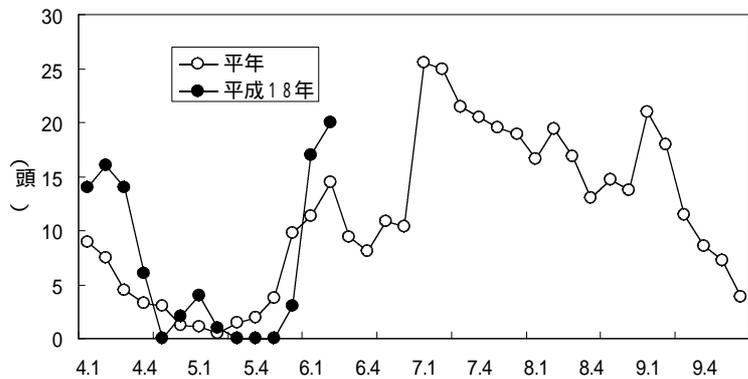


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ) (月・半月)
平年値は平成8~17年の平均

なし

1. 黒星病

平成18年5月16日付け、病害虫発生予察注意報第4号を継続

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は2.3%(1.2%)、発生圃場率は54.5%(22.9%)、発病果率は0.9%(0.1%)、発生圃場率は9.1%(7.4%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(びわの欄参照)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代の成虫の発生ピークは7月上旬頃と予想されるが、ピーク日~その10日後頃までに薬剤散布すると防除効果が高い。

- イ 多発生時は残効が長い合成ピレスロイド剤が有効であるが、ハダニ類やカイガラムシ類の多発を引き起こすことがあるので注意する。
- ウ 本虫の薬剤抵抗性は確認されていないが、同一系統の薬剤の連用は避ける

ぶどう

1. ペと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉での発生は認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率4.1%)。また、発病果房率0.0%(発生を認めない)、発生圃場率8.3%であった。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉での発生は認めなかった(発病葉率0.3%、発生圃場率11.5%)。また、果房での発生は認めなかった(発病果房率0.0% 発生圃場率0.8%)。

イ 5月下旬での巡回調査では、多発生している圃場が見られた。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生果房率0.0%(0.0%) 発生圃場率8.3%(1.0%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(かんきつの欄参照)。

果樹共通

カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

各地区のフェロモントラップ及び予察灯の誘殺量は平年より多く推移している(図)。

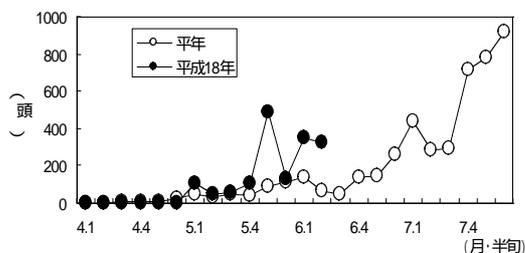


図 チャバネ・ツアアオカメムシの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)
 平年値は平成11~17年の平均

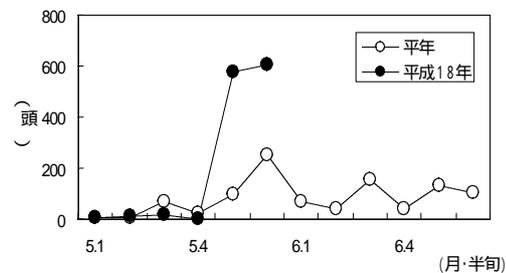


図 チャバネ・ツアアオカメムシの誘殺状況(西彼:予察灯)
 平年値は平成9~17年の平均

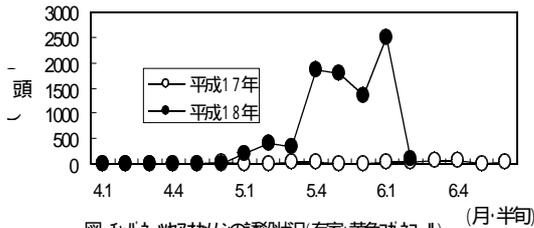


図1 チャバネ・ツアアオカムの誘殺状況(有家:黄色カネコル)
(6月2日に設置場所を変更した)

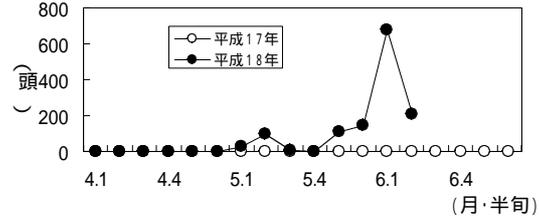


図2 チャバネ・ツアアオカムの誘殺状況(多良見:黄色カネコル)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来時期や飛来量は園によって差があるので、園をなるべくこまめに見回り、早期発見、早期防除に努める。

イ 他の害虫の防除を実施する際にカメムシ類に効果がある薬剤を選択する。

ウ カメムシ類は夜間に果樹園での密度が高まるので防除は夕方または早朝に行う。

エ ハウス栽培では、開口部を防虫網(4mm目以下)で被覆する。また既に被覆済のハウスでも防虫網の破損がないか点検し、カメムシ類の侵入を防ぐようにする。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は0.2枚(3.2枚)、発生圃場率は35.0%(35.6%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は26.2頭(14.8頭)、発生圃場率は75.0%(84.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多い圃場では、二番茶摘採後の防除に努める。

イ 感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.0枚(0.1枚)発生圃場率は5.0%(8.8%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並だった(図)。

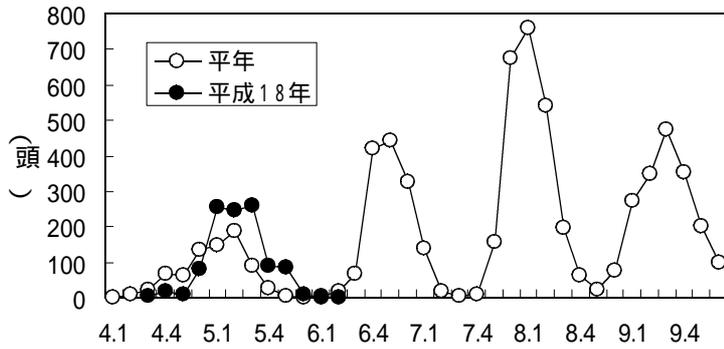


図 チャノカケシハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)(月・半月)
平年は平成13年～17年の平均値

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、巻葉を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.1枚、発生圃場率3.3%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並だった(図)。

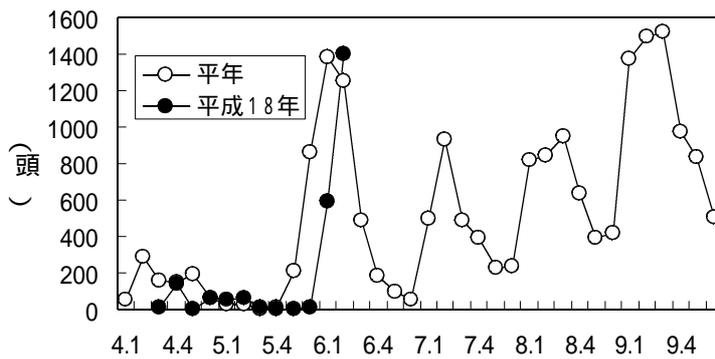


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ) (月・半月)
平年値は平成13年～17年の平均値

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.3%(3.7%)、発生圃場率は15.0%(24.3%)だった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

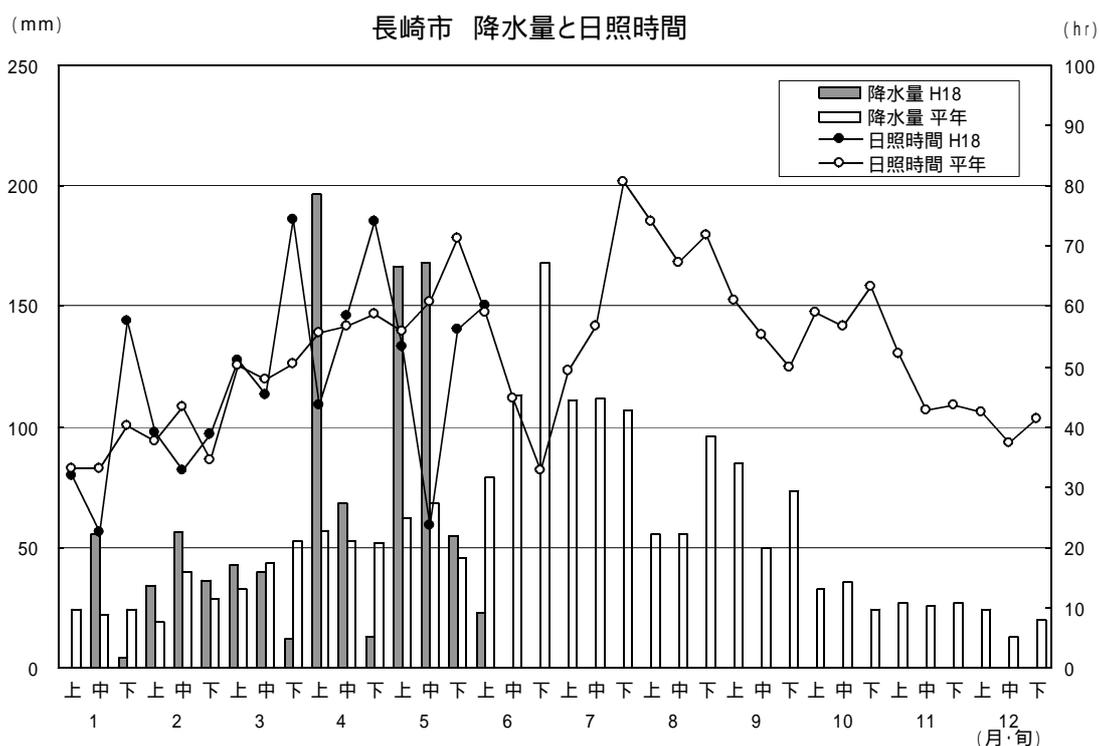
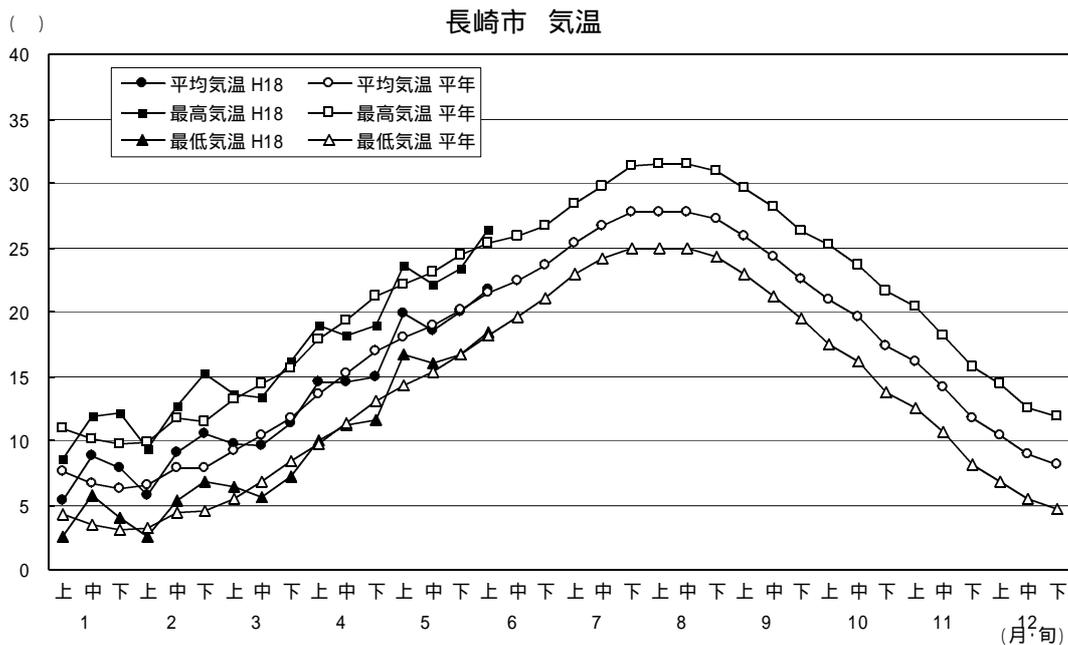
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は0.4頭(1.1頭)、発生圃場率は30.0%(29.3%)であった。

平成18年の気象経過（長崎海洋気象台）



「農薬使用基準の遵守について」
 農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
 「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
 「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制）
 アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>やその他の情報を閲覧することができます。
 この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。
 長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp